

いっせーのせ

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

防災訓練にご参加ください！

長坂地域総合防災訓練プログラム

◇日 時 2023年2月26日(日) 10:00~12:00

※9:30より学校ピロティで受付開始

◇会 場 神戸市立長坂小学校 校庭、体育館等

※雨天のときは体育館等屋内

先着100家族様に記念品防災用「ハイパワーライト」を進呈します。

◇内容◇

- 1.避難訓練 車椅子搬送、煙からの避難方法、ダンボールベッド組立
- 2.消火訓練 消火器取扱法、放水訓練
- 3.救急救命 AEDを用いた心肺蘇生訓練、簡易担架による搬送訓練
- 4.パネル展示 被災地でのボランティア体験、防災クイズ(景品つき)
- 5.炊出し訓練 豚汁炊出しと試食

神戸市消防音楽隊演奏 屋外演奏(雨天のときは屋内演奏)



一年に一度の防災訓練ですが、新型コロナウイルスの感染拡大が長引き、4年ぶりの開催となります。地域での防災・減災を図るとともに、地域の方々との交流を深める機会としてご家族、お友達お誘いあわせの上ご参加下さい。
参加される方はマスク着用の上、動きやすい服装、靴でおいで下さい。

神戸学院大学生も参加します！

お問合せ:長坂地域福祉センターまで Tel078-976-9373(月、木、土曜9時~13時の間にお願いします)

主催:長坂ふれあいのまちづくり協議会 長坂校区防災福祉コミュニティ

※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染状況によっては中止になる場合があります。
必ず事前に「長坂ふれあいのまちづくり協議会」ホームページをご確認下さい。

取材 コープこうべ

◇お話を伺った方

生活協同組合コープこうべ
第5地区本部(神戸市垂水区・西区)
本部長 中島 寛文さん

◇学生記者

神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ
宮崎 瑠希也(人文学部2年次生)
梶原 健一郎(経済学部1年次生)

日本における生活協同組合の発祥の地は神戸です。1921年にコープこうべの前身となる神戸購買組合、灘購買組合が誕生し、そこからいくつかの合併を経て、活動エリアも広がり、1991年「コープこうべ」に改称しました。今年で102年目を迎えるそうです。

「生協の父」である賀川豊彦が説いた「愛と協同の精神」を活動理念として活動されています。賀川の教えが現在もコープこうべに引き継がれていることを取材から感じ取ることができました。



中島さんの話に聞き入る学生記者

阪神・淡路大震災の被災経験

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、被災地を活動エリアとしていたコープこうべは、本部ビルの倒壊や、多くの店舗施設に被害を受けました。被災直後から、いち早く店舗を開店し、販売できる商品を困っておられる地域の方々に提供されたそうです。

震災を経験した中島さんは、当時、西宮市の仁川周辺で商品の宅配業務をされており、地震で被災した地域にも商品を届けておられました。地震によって、突然、日常が奪われ、暮らしの不安が広がる中で、「商品を届ける」ことを通じて、多く方々の生活を助けている大切な仕事であることを改めて知りましたと語っておられました。

この震災では、県外から多くの生協職員の応援を受け、地域でたすけあう、ボランティアのしくみが大きくクローズアップされ、国内外の被災地への活動支援とともに、経済支援のしくみとして「ハート基金」も設立されました。また、水害被災地に泥の除去用の古タオルを送る取り組みを広げるなど、様々な地域の「たすけあい」の活動を行っています。

水害支援
お家のタオル

古いタオルの提供に
ご協力ください!!

令和2年7月、九州・中部地方を中心とした大規模な水害が発生しました。過去に水害を経験し、すでに備蓄していた、コープこうべの他のエリアから被災地へタオルを提供しました。

【回収するタオルの区分】

- 古タオル（洗濯済のものに限定）
- バスタオル、フェイスタオル
- 新品タオル

使用済みタオルが吸水性が良く大変喜ばれました。
生活協同組合コープこうべ 第5地区本部

たくさんのタオルを被災地に送られました

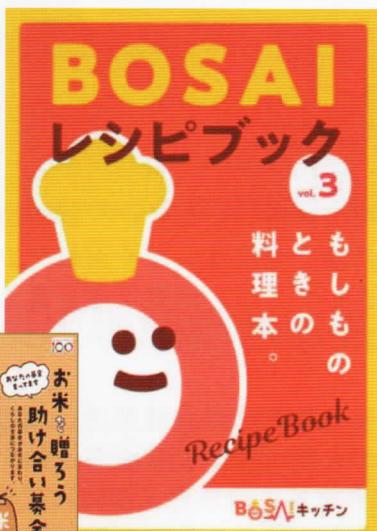
コープのさまざまな取り組み

その他にもさまざまな防災活動を展開されています。たとえば、『BOSAIレシピブック』という防災食の冊子を発行されています。こちらはコープこうべのホームページからダウンロードができます。防災レシピは地域の協力で作成されました。レシピの説明やアレンジ方法、他にも紙食器の作り方やローリングストック法についても紹介されています。また、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、フードバンクや施設に寄付をする「フードドライブ」という活動も取り組まれています。

さらには、コープには「コープ共済」があり、災害時の対応として、組合員の家に行き、安否確認や被害を受けた方に「災害見舞金」を渡すといった活動をされています。

地域防災の取り組み

レシピはHPからも
ダウンロードできます→



←「フードドライブ」
とは各家庭から食品を
持ち寄り、必要とする
方に提供する取り組み



皆さん、長坂ジュニアチームをご存じですか？

長坂小学校の4年生～6年生ならだれでも隊員になれます。隊員は防災訓練に参加したり、防災について学んだりします。また、地域の人達と一緒にボランティア活動に参加します。長坂ふれあいのまちづくり協議会のメンバーが中心になってこれらの活動を行っています。もう10年以上続いています。

今年度もコロナ禍のために活動は縮小されましたが、新しい出会いもありました。それは、神戸学院大学の学生さん達との出会いです。ボランティア活動支援室のお兄さんやお姉さん達と一緒に防災学習をしたことが、隊員にとってとても新鮮で楽しかったようです。学生さん達との繋がりができたおかげで、夏休みの大学生企画防災デイキャンプにも参加しました。他の小学生との交流もでき、防災の知識も増え、よい経験になりました。

隊員と一緒に防災学習をしたい、ボランティア活動の場を提供したい、と思われる方がいらっしゃったら、ぜひふれあいのまちづくり協議会にお知らせください。

3月になったら担任の先生から募集要項が配られます。興味のある人は担任の先生に申し込んで下さい。活動は年に10回ほどです。費用はいりません。お待ちしております。

若い人たちに期待すること

最後に、中島さんに若い人たちに期待することをお聞きしました。「若い人たちの新しい視点や発見を積極的に発信すること」そして、同時に「変えてはいけないものは何かを知り、学んで、守り続けること」との意見をいただきました。

これまで長坂の方々と地域防災の活動を継続してきましたが、経験が乏しく、学生だけではできないことがあります。ですからさまざまな世代の方々と連携し、若者だけで閉じるのではなく、オープンにして、時には力を借りることが必要だと実感しています。

防災について考えるのは、特定の世代ではなく老若男女問わず、誰もが考えなくてはならないことです。だからこそ、今後は今まで以上に世代間連携が必要なのではないでしょうか。

*

2023年6月、西区で無印良品とコープこうべの協働で防災に関する商品紹介や交流会が実施される予定です。新しい取り組みに期待したいです。



地域を知ることが防災の第一歩

農業から見た長坂・漆山地域の変遷～その2～

長坂ふれあいのまちづくり協議会委員長 久保 晶一

前号では、長坂新田と有瀬漆山地区の開墾から現在まで360年の農業についてお話をしました。今回は、街並みがどのように変遷してきたかについてお話ししましょう。

*

戦後の農地改革により、田畠が大地主から大勢の人々に分散したことが、都市近郊で早くに農業が衰退した一因と思われます。農地改革が無ければ、日本の経済発展は大きく遅れていただろうと言われています。当地区が市街化区域を選んだことも変化を加速しました。調整区域を選んでいれば、今でも地域には畑や林が広がっていたと思います。また、「農業は労多くして入り少なし」と言われます。戦後も花や野菜を出荷して細々と生計を立てていました。

1964年に神明道路（大蔵谷一名谷）が開通。1970年に神明道路全線開通（須磨料金所—西明石）そして加古川バイパスにつながったことで、東西の交通が大変便利になり経済活動が活発になってきました。1966年には神戸学院大学が開校されました。自治会役員方の尽力で誘致に成功したと聞いています。大学は地元の経済発展にとても大きく貢献しました。学生の通学の為に、明石駅まで神姫バスの路線ができました。当時は30円前後の運賃でした。地元の農家は地方からの学生の為に、学生寮を次々と建てていきました。家賃は4畳半、風呂、トイレ、台所が共同で月額1万円ほどです。服を収めるファンシーケースと机代わりのやぐら炬燵が必需品でした。下宿が増えると飲食店や商店がたくさん開かれ「有瀬銀座」と呼ばれるにぎやかな場所もありました。1980年頃からはワンルームマンションが徐々に増え、2000年頃には学生寮はすっかりなくなりました。

30年前のバブル期には地価高騰が起り、土地高度利用のために高層マンションが沢山建ちました。農家も不動産活用で、貸店舗、賃貸マンションなどの事業を積極的に進めていきました。

しかし残念なことに、2007年から大学生の半数がポートアイランドに移った事で、地元のワンルームマンションや飲食店などが非常に厳しい状況になっています。最近は戸建て住宅が次々と建てられ、住民が徐々に増えています。

この地域は気候も比較的穏やかで暮らしやすい所です。しかし1966年には瞬間最大風速50メートルの台風の直撃を受け、民家の屋根が吹き飛びました。1995年には阪神淡路大震災に見舞われ、大きな被害がありました。伊川が氾濫しそうな大雨も何度かありました。

最近は、世界各地で大きな災害が頻繁に起こっています。いつ人知を超えた災害が身近で起こるかもしれません。災害に遭う可能性は旅先でもあります。日頃から色々と知識を蓄え災害に対する備えが大切です。

長坂ふれあいのまちづくり協議会は、神戸学院大学と連携しながら、地域の皆様のご協力もいただき災害のない豊かで住みよいまちづくりを目指して、防災訓練、啓発活動などに力を入れています。



小西弘悦さん栽培のトルコ桔梗

2022年度最終号となります。23年度も継続して発行していきたいと思います。長坂の皆様のご意見をぜひお寄せください。

防災情報誌『いっせーのせ』VOL.8

発行 2023年2月1日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 TEL 651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

TEL 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp